

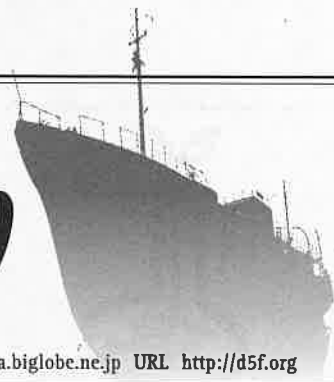
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2005.07.01
No.321

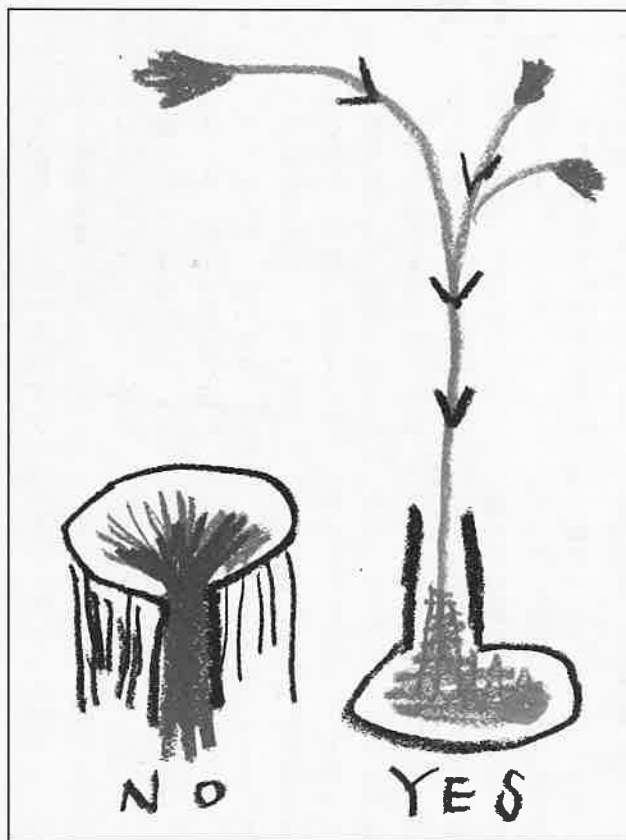
福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



右・ピカドン展 <S>・Nのシンボルイメージイラスト 左・ライブペインティング制作中の黒田征太郎さん



ヒロシマ・ナガサキ60第五福竜丸からのメッセージ

PIKADON展 黒田征太郎作品

七月一六日―八月一四日

第五福竜丸展示館の被爆六〇年特別企画展は、イラストレーター・アーティスト黒田征太郎さんの作品「PIKADON展」です。

忘れてはイケナイ物語

戦後五〇年の一九九五年、ニューヨークに住む黒田さんは、一冊の本に出会いました。野坂昭如さんの「戦争童話集」です。

黒田さんは、野坂さんの原作をもとに「戦争童話集」を制作、忘れてはイケナイ物語」を制作、「凧になったお母さん」「小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話」「八月の風船」「焼跡の、お菓子の木」など一二の作品が絵本やビデオ化、NHKから放送され大きな反響をよびました。

二〇〇一年には、忘れてはイケナイ物語の沖繩篇として「ウミガメと少年」が野坂、

黒田コンビで創作されました。

キノコ雲のポストカード

一方、黒田さんは、被爆五〇年の一九九五年にフランスと中国が核実験をおこなったことにたいして「キノコ雲」の絵を描きはじめ、友人のイラストレーター山部ヒロノブさんとニューヨーク・東京を結んで交換しこれまで三〇〇〇枚を超えました。

あるとき、キノコ雲を逆さまにすると、何と命が溢れる水差しに見えました。そのとき「NoばかりをいうのではなくYesも提示しなければいけない」と思いついたとい

います。
黒田さんはこうした想いをトランペッターの近藤等則さんに話し、二人でピカドンプロジェクトを立ち上げまし

(2めんにつづく)

死の灰は今も降りつづいています。空からも海からも
 ……そのことを第五福竜丸は言っています。

(ビキニ水爆被災五〇周年によせての黒田さんのメッセージより)

(一めんからつづく)

このプロジェクトでのライ
 ブペインティングとは、近藤
 さんの即興演奏にあわせて黒
 田さんが描く作品でこれまで
 八点のピカドン作品が創られ
 ています。

今回の展覧会は、黒田さん
 が、第五福竜丸に共鳴し特別
 展を平和協会と共同で企画、
 黒田さん長友啓典さんのデザ
 イン事務所K2の協力で実現
 しました。出展作品は、ライ
 ブペインティング作品八点と
 その映像(DVDインスタレ



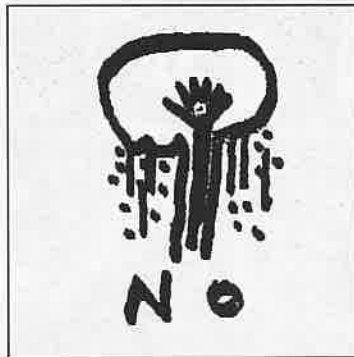
ーション)、キノコ雲のスラ
 イドショウ、忘れてはイケナ
 イ物語の絵本展示とDVDイ
 スタレーション、キノコ雲
 など。

あなたのメッセージを

今回の展覧会のために黒
 田さんは、NoとYesのイラ
 ストを描きました。このYes
 には上のイラストのような花
 が描かれています。そこに
 一人一人の花を来館者に描い
 てほしいというものです。こ
 の花は命のシンボルであり、
 あなたのメッセージです。

展示館では、来館者のメッ
 セージを展示するボードも設
 置し、多くの人にPIKADON
 展に参加してもらおうとい
 う試みです。

また、特別展を記念して「ポ
 ストカードセット」「YesNo



のカード」「ペットボトル」水
 いのち」を作り普及します。

*

展覧会の会期は七月一六日
 より八月一四日まで。

オープニングの七月一六日
 は、人類史上最初の核爆発実
 験が行われた日(一九四五年

七月一六日ニューメキシコ州
 アラモゴードの砂漠でのトリ
 ニティ実験)。この日から敗
 戦の前日までおこないま
 す。展示館は、月曜休館た
 し七月一八日は開館し一九日
 振替休館。入館無料です。

出典作品リスト

*ピカドン・プロジェクト
 ライブペインティング作品
 (3m x 1.5m) 8点 甲板上に
 展示。

*キノコ雲スライドショウ、
 ファックス等でやりとりされ
 たカード(複写)

*キノコ雲のポストカード、
 2階デッキに展示。

*DVDインスタレーション
 ライブペインティング記録

映像(日本工学院専門学校
 04・10・31/スーパードラッ

クス05・2・5/ベニサンピッ
 ト05・3・13/広島フラワー

フェスティバル04・5・4/
 FM東京ホール04・11・23

*忘れてはイケナイ物語 絵
 本を読むコーナー、DVDイ

ンスタレーション・小さな潜
 水艦に恋をしたクジラの話/
 凧になったお母さん/年老い

た雌狼と女の子の話/青いオ
 ウムと瘦せた男の子の話/干
 からびた象と象使いの話/赤
 とんぼと、あぶら虫/八月の
 風船/捕虜と女の子/馬と兵
 士/僕の防空壕ほか

オープニング記念
 黒田征太郎さんを迎えて、
 トークとペインティング。
 7月16日午後3時より
 参加者も一緒に「花」
 を描きましょう。

考えてみれば、戦後なんて一度も
 あったことがない。この地球の上
 はいつも戦中ではないでしょうか。

(野坂昭如・黒田征太郎「忘れてはイケナイ物語」より)



久保山無線長の年譜など展示 パネルを贈呈して

船舶通信士労働組合常任委員長 宮内清志

一九八〇年「世界的な海上における遭難・安全制度」の検討が始まり、一九九九年二月より導入が決められました。

この制度は従来のモールス通信から衛星を利用し、デジタル信号を使用した通信方式に切り替えるものです。

このため船舶相互の通信による救助体制から陸上の救助

機関の指示による救助へと移行することになりました。

この新たな通信制度の完全導入により船舶通信士という職能はその歴史的存在を了えることになりました。

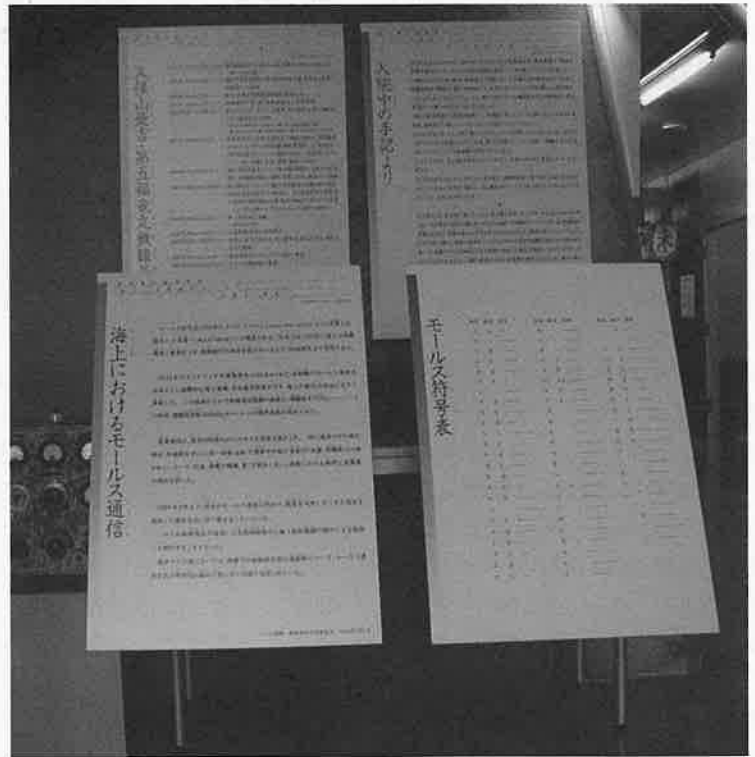
それと同時に、一九三五年以来、太平洋戦争の苛酷な時代を乗り越え、七〇年間にわたり船舶通信士の社会的地位と労働条件の向上を目指して



上・宮内委員長に感謝状を手渡す平和協会の川崎会長／下・モールス電鍵のハンズオンを操作する生徒達



久保山愛吉氏年譜、モールス信号に関する展示パネル



たたかつてきた職能の運動体そのものも終焉を迎えることになりました。

本組合は、財団法人第五福竜丸平和協会の賛助会員として、都立第五福竜丸展示館の維持と発展のため微力ながら協力して参りましたが、今後はその活動を継続することが不可能になりました。

このため「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」との久保山愛吉さんの願いを永

く次の世代に伝えるために第五福竜丸展示館に必要な展示パネル及び資料として

- 久保山愛吉無線長の年譜
 - 久保山愛吉入院中の手記
 - 海上におけるモールス通信と電鍵のハンズオン
 - 第五福竜丸の航路図と被災位置(更新)などを寄贈する
- とともに、展示館のさらなる充実のために若干の資金の寄附を行うことになりました。
- 第五福竜丸平和協会関係各

位のご努力に敬意を表するとともに、一層の発展を祈念する次第であります。

五月二四日、船舶通信士労働組合の宮内清志委員長ほか役員三氏が来館し、パネル等の寄贈式がおこなわれました。第五福竜丸平和協会は感謝状を贈りました。

感謝状

船舶通信士労働組合 殿

貴組合は、ビキニ水爆実験・第五福竜丸被災五〇周年記念事業をすすめる当協会にたいして多額の寄附をされました。また、通信士として生涯を郷土の漁業に捧げた第五福竜丸無線長・故久保山愛吉氏を顕彰する展示パネル及び展示資料を寄贈されました。

これは第五福竜丸とともに「原水爆のない未来」をめざして航海をつづける私どもと私どもの事業への大きな貢献であり励まします。

ここに、本状により謝意を表すものです。

二〇〇五年五月二四日

財団法人第五福竜丸平和協会

会長 川崎昭一郎

「明日の神話」再生へ

昨年、第五福竜丸の甲板に展示された岡本太郎の「明日の神話」(原画)の完成作品の壁画が、メキシコから日本へと戻ってきました。

1968年から69年にかけて制作されたものの、依頼主の事情で公開されることなく放置されたまま行方不明になっていたのが、35年の時を経て発見されたもの。先頃亡くなられた岡本太郎記念館前館長の岡本敏子さんが、日本に移送し修復・公開するプロジェクトを立ち上げていました。作品は5月末、神戸港に到着、約1年半かけて愛媛県内で修復される予定です。岡本太郎生誕100年にあたる2011年までには、相応しい施設を選定して設置するという企画も進行中です。

また、川崎市岡本太郎美術館では「『明日の神話』完成への道」と題した特別展が開催されます。岡本太郎の反戦・反核に関わる作品や資料をはじめ、「明日の神話」の油彩原画4点、記録映像・写真等で壁画完成までの制作過程を辿る展示会です。特別展には平和協会所蔵の資料から「死の灰」(レプリカ)、「放射能マグロのウロコ試料」「ガイガーカウンター」などが展示されます。

会期は7月16日～9月25日まで。問い合わせは、電話044-900-9898、ホームページwww.taromuseum.jpまで。

ビキニ関連2つの新刊

昨年のビキニ水爆被災50年を契機に、おこなわれたさまざまな取り組みにつづき、ビキニ事件と核問題を読み解く研究書が相次いで刊行されました。

展示館売店でも普及していますが、ぜひ地域の図書館や学校などにも、おすすめください。

*

豊崎博光著『マーシャル諸島核の世紀1914-2004』

四半世紀にわたり、世界の『核が作り出した光景』に肉迫してきた、フォトジャーナリスト豊崎博光さんの新刊です。積み重ねられた取材とアメリカが公開した資料の綿密な分析をもとに、マーシャル諸島の核被害の実相、日本と世界の情勢をレポートしています。書き下ろし2300枚、上下二分冊の大著です。第五福竜丸とビキニ事件を探求する方には必読書です。

日本図書センター A5判上巻654頁、下巻624頁、揃定価11,600円+税

*

『隠されたヒバクシャ 検証=裁きなきビキニ水爆被災』

(投稿 竹峰誠一郎)

この度「ビキニ50年」の研究成果をまとめ、グローバルヒバクシャ研究会編『隠されたヒバクシャ 検証=裁きなきビキニ水爆被災』を刊行することができた。本書は、監修と執筆にビキニ問題研究の先駆者である前田哲男さんを迎え、2、30代の若手研究者(高橋博子、竹峰誠一郎、中原聖乃)が分担執筆した。

高橋さんは、近年機密解除された米公文書を駆使し、米政府が巧みに自らの責任を回避する形で第五福竜丸の被災問題を処理し、世論の沈黙化をはかっていった、そのプロセスとからくりを解き明かした。中原さんは、一年以上現地で暮らし収集した証言をもとに、故郷から移住をいられている人びとが、ヒバクをど

のように受け止め、超大国アメリカとどのようにわたりあってきたのか、かれらの足跡を追った。

竹峰は、これまで核被災が語られてこなかった地域で集めた証言と、米公文書とをつき合わせながら、ビキニ被災の地域的広がりを明らかにした。さらにヒバク地の「現在」に迫り、ヒバクの影響は、ガンなどの健康被害にとどまるものなのか問いかけた。

また、平和協会の協力を得て、ビキニ問題に先駆的にかかわった方々を交えて、福竜丸を背に語り合った座談会「ビキニを過去に問い 現在・未来につなげる」を収録した。本書が、ビキニ水爆被災、ひいては世界に広がるヒバク問題への関心と呼び、この問題を追究していく一助になればと思う(筆者・早稲田大学大学院生/平和協会専門委員)。凱風社、四六判408頁、3,000円+税

第五福竜丸保存の「技」を学ぶ

第五福竜丸を守った人たちの聞き取りを続けているボランティアの会では、6月19日、1985年の大修復を指揮した船大工の横川廣棟梁を招き、その技術と経緯について伺いました。

横川棟梁は、東京水産大学(現・海洋大学)の練習船「はやぶさ丸」の頃からこの船をメンテナンスしています。

また、木造船の造船・修復、補修の計画にあたった、木造建築物保存の専門家の日塔和彦さんも駆けつけ、大補修から20年目の船のようすを点検しながら、解説をされました。

